

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気ウォッチャー調査(12月)

発表日：1月13日(金)

～ 強い ～

(No. J - 204)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL : 03-5221-4528

	景気の状態判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の状態判断(水準)				
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	
04年	11	45.3	43.1	46	58.4	45.8	45.2	44	53.1	40.9	36.9	44.9	58.8
	12	44.2	43.4	42.6	52.8	44	43.4	43.1	49.6	40.7	38.2	42.1	54.3
05年	1	45	44.3	43.1	53.5	48.3	48.1	46.5	53.2	40.2	37.8	40.3	55.3
	2	45.6	44.1	46.2	54	49.9	50.1	48.1	52.5	40.4	37.3	43.4	54.4
	3	49.5	48.3	50.1	56.4	49.8	49.9	47.5	54.2	44.2	42	46.1	54.9
	4	49.8	49	50.6	53.6	50.3	49.9	49.7	54.3	44.9	42.9	47.4	52.8
	5	50.3	49.7	50.1	55.1	51.9	51.6	50.7	56.2	45.1	43.5	46.1	53.5
	6	50.9	50.4	49.3	57.4	51.2	50.3	51.1	57.4	46.6	45.2	47	55.5
	7	50.4	49.3	49.7	58.8	52	50.9	52	58.4	45.8	43.6	46.9	57.1
	8	50.5	49.1	50.9	59.5	51.9	50.7	51.4	61	46.3	44.4	47.7	56
	9	51.7	49.6	53.2	62.1	53.1	52.4	52.3	59.1	47	44.2	50.3	58.4
	10	50.7	48.5	52.6	60.9	53.4	52.8	52.7	58.7	47	43.9	50.3	59.5
	11	52.9	51.3	54.3	60.5	52.4	51.7	52.3	57.4	48.8	46.4	51.2	59.1
	12	55.7	54.8	55.7	61.1	53.6	52.6	53.3	60.2	51.5	50	52.9	58.5

前年差

05年	11	▲ 3.0	▲ 2.7	▲ 4.8	▲ 1.3	▲ 2.7	▲ 1.8	▲ 5.3	▲ 3.1	2.2	0.6	2.5	11.9
	12	▲ 4.9	▲ 3.9	▲ 7.4	▲ 6.3	▲ 3.8	▲ 2.8	▲ 5.7	▲ 6.5	0.0	▲ 1.3	0.2	7.5
	1	▲ 3.6	▲ 2.6	▲ 6.1	▲ 5.6	▲ 2.9	▲ 2.0	▲ 4.7	▲ 6.2	▲ 0.3	▲ 1.1	▲ 0.9	4.9
	2	▲ 4.5	▲ 4.0	▲ 5.1	▲ 6.9	▲ 3.7	▲ 2.9	▲ 3.6	▲ 9.2	▲ 1.9	▲ 2.9	▲ 0.2	1.0
	3	▲ 4.2	▲ 3.1	▲ 5.3	▲ 8.7	▲ 3.8	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 8.9	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 2.2	▲ 2.2
	4	▲ 5.9	▲ 4.3	▲ 8.1	▲ 11.9	▲ 5.0	▲ 4.2	▲ 5.6	▲ 8.9	▲ 2.9	▲ 2.3	▲ 4.2	▲ 4.6
	5	▲ 2.5	▲ 0.8	▲ 5.0	▲ 8.5	▲ 3.1	▲ 2.5	▲ 3.3	▲ 7.0	▲ 0.3	0.7	▲ 1.8	▲ 3.9
	6	▲ 0.5	1.4	▲ 4.7	▲ 5.2	▲ 2.9	▲ 3.0	▲ 1.9	▲ 5.0	1.5	3.1	▲ 1.5	▲ 3.5
	7	▲ 3.9	▲ 3.1	▲ 6.2	▲ 5.2	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 2.5	▲ 4.8	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 4.0	▲ 2.1
	8	▲ 0.2	1.3	▲ 2.0	▲ 6.2	0.2	0.4	0.3	▲ 0.9	1.5	3.1	▲ 0.3	▲ 5.9
	9	4.4	5.0	3.5	1.1	3.1	3.1	3.2	1.8	4.3	5.4	3.0	▲ 1.5
	10	4.3	4.9	4.4	▲ 0.4	4.6	5.0	5.7	▲ 0.3	5.6	6.1	5.4	1.6
	11	7.6	8.2	8.3	2.1	6.6	6.5	8.3	4.3	7.9	9.5	6.3	0.3
	12	11.5	11.4	13.1	8.3	9.6	9.2	10.2	10.6	10.8	11.8	10.8	4.2

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

○ 12月の消費も好調

本日公表された12月の景気ウォッチャー調査によれば、現状判断DI(方向性)は55.7と前月差+2.8ポイントの改善、先行き判断DIは53.6と同+1.2ポイントの改善となった。現状判断DI(方向性)は8ヵ月連続、先行き判断DIは9ヶ月連続で「景気に中立」を意味する50を上回っていることなども考えると、かなり底堅い結果だ。景気ウォッチャーのマインドは順調に改善を続けていると判断される。

今月は全般的に改善しているが、特に家計部門の改善幅が大きかった。乗用車販売店に関しては依然として不振が続いているが、家電量販店や百貨店に関しては12月はかなり好調に推移したようだ。薄型テレビ等のデジタル家電販売がかなり好調だったことや、冬物重衣料が売れ行き好調だったことが寄与している。このように、12月の家計部門は11月に続いて堅調に推移した模様であり、GDPベースでの10-12月期個人消費はかなり高い伸びになる可能性が出てきた。2005年度のGDPには上振れ余地ありだ。

冬のボーナスも増加したとみられることに加え、雇用関連D I（現状判断、方向性）が50を大幅に上回っての推移を続けるなど、消費の源泉となる雇用・所得環境は順調に改善している。定率減税の縮減等の懸念要因材料もあるが、今後の消費も底堅く推移していく可能性が高そうだ。

なお、寒波・大雪に関しては、コートや暖房器具などの売れ行きが好調とのコメントも多かったが、一方で、雪の影響による来客数の減少や物流への悪影響などを指摘するコメントもみられた。地域や業態によって影響はまちまちのようだ。

○1-3月期の生産も好調か

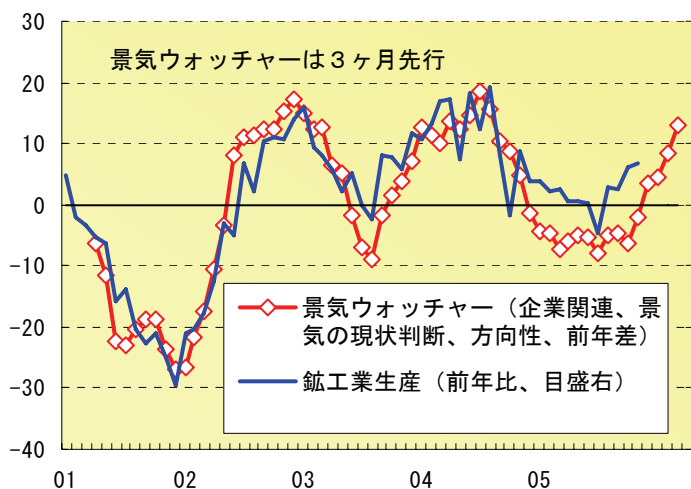
なお、景気ウォッチャー調査は歴史が浅いこともあって季節調整値は作成されておらず、原系列のみの公表となっている。そのため、景気ウォッチャー調査を見る際には、公表されている原数値だけではなく、前年差も見る必要がある。実際に、景気ウォッチャー調査の企業動向関連のD I前年差は、鉱工業生産前年比に2～3ヵ月程度先行する形で高い相関を示す。

そこで、12月調査での前年差を確認すると、現状判断D I（方向性）は+11.5（前月+7.6）、先行き判断D I（方向性）は同+9.6（前月+6.6）、現状判断D I（水準）は同+10.8（前月+7.9）と、それぞれ大きく改善しており、改善傾向は鮮明だ。

鉱工業生産は2005年7-9月期まで横ばい圏内の動きを続けていたが、10-12月期には前期比で3%近い上昇になるとみられており、回復が明確化してきている。景気ウォッチャー調査の鉱工業生産に対する先行性から判断すると、10-12月期に続いて、2006年1-3月期の生産も好調に推移する可能性が高くなったといえそうだ。10-12月期の生産増加は一時的なものではなく、年明け以降も回復が続くことを示唆するものとして重要なシグナルであると考えられる。

生産を取り巻く状況を見ても、IT部門の在庫調整終了や輸出の持ち直し、非IT部門の在庫調整進捗など明るい材料は多い。鉄鋼の減産が続いていることは懸念材料だが、現在不振なのは中国を中心とした安価な海外製品との競合が激しい汎用品のみであり、自動車向けや造船向け、IT関連向けなどの高付加価値品に関しては引き続き価格も堅調に推移している。業種ごとに状況は異なるが、全体として大きな下振れ要因は見当たらないことから、生産は今後も回復傾向を続けていくと考えられる。

景気ウォッチャー調査（企業関連、方向性）と
鉱工業生産



(P) 景気ウォッチャー調査（企業関連、水準）と
鉱工業生産 (%)

